教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康・スポーツ科学科　　資格： 准教授　　氏名： 中堀　千香子

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ医学,コンディション,アスレティックトレーニング	スポーツ外傷・障害予防,コンディショニング,ジュニアアスリート,女性アスリート
学位	最終学歴
修士（体育学）	筑波大学大学院　体育研究科　応用健康スポーツ専攻　修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.（スポーツセンター・学友会）2024年度武庫川女子大学アスリートセミナー開催	2025年2月17日	スポーツセンター主催『武庫川女子大学アスリートセミナー2024』を企画・進行した。 第一部：外部スピーカー講演「「女性アスリートの身体調整と身体操作のアプローチ~ヨガ動作学から学ぶ」／山本邦子氏 第二部：話題提供「PMS(月経前症候群)の対策について~γ-トコ複合食品の情報提供」／小林洋氏 第三部：活動報告「モーグル・ワールドカップ出場報告～世界を舞台に戦う武庫女アスリート／藤木日菜氏
2.（ゼミ活動）武庫女甲子園スマイルフェスにおける乳がん早期発見啓発活動WS開催	2025年2月15日2025年2月16日	ららぽーと甲子園で開催される本学の社会連携推進イベント第7回武庫女スマイルフェスにおいて、乳がんの早期発見を啓発するポスターや相談会、缶バッジ作成WSなどをゼミで企画し、運営を行った。
3.（ゼミ活動）日本スポーツ協会JSPO-ACP親子体験イベント開催	2024年12月8日	公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）主催「アクティブ チャイルド プログラム（JSPO-ACP）」親子体験イベント西宮会場を本学で開催。市内在住の約110名の親子が来場、JSPO講師、プロ野球選手のゲストを迎え開催し、ゼミにて運営支援を行った
4.（ゼミ活動）全国高等学校女子硬式野球選手権大会のコンディションサポート	2024年7月5日2024年7月28日	丹波市包括連携協定事業により丹波市で行われた全国高等学校女子硬式野球選手権大会においてコンディションサポートブースを開設し、メディカルサポートを実施した
5.（スポーツセンター・学友会）2023年度武庫川女子大学アスリートセミナー開催	2024年2月19日	スポーツセンター主催『武庫川女子大学アスリートセミナー2023』教育講演「スポーツ傷害予防とコンディショニング」／元阪神タイガーストレーナー　手嶋秀和氏 学生講演「パラスポーツ国際大会活動報告」／教育学部　藤本みづほ氏 記念講演 「学生アスリートとして学ぶということ」三井昌也教授
6.（ゼミ活動）武庫女甲子園スマイルフェスにおける第３の生理用品啓発WS開催	2024年2月17日	教育社会連携活動であるららぽーと甲子園と本学の提携イベントである第６回武庫女スマイルフェスにおいて、第３の生理用品啓発ワークショップを開催しゼミの教育活動の発表を実施した。
7.（ゼミ活動）女子学童野球大会におけるボランティア救護ブース開設	2024年2月3日～現在	西宮市スポーツ少年団主催、武庫川女子大学後援、小学生女子野球大会「N-PRIDE CUP”W”」にゼミとして学生救護ボランティアおよび選手教育活動を行い大会サポートを実施
8.（ゼミ活動）女性競技者への第３の生理用品啓発イベント	2023年11月21日	学内もみのき広場にて第３の生理用品啓発イベント「Hello!femtec!]を開催し、教職員、学生への月経用品の選択肢の提示と月経用品に関する認識について調査結果を発表し啓発活動をおこなった。
9.（スポーツセンター・学友会）2022年度武庫川女子大学アスリートセミナー開催	2023年2月13日	スポーツセンター主催『武庫川女子大学アスリートセミナー2022』を企画・進行した。 第一部：外部スピーカー講演「見るチカラでパフォーマンスをアップする」／ビジョンアセスメント（株）小松佳弘氏 第二部：教育講演「運動後のアミノ酸選手のリカバ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		リー効果」／（株）サン・クロレラ奥村衣梨氏 第三部：情報提供 「本学運動部学生サポートの取り組み」食物栄養学科　小林知未 「女性アスリートの三主徴に係る実態調査報告」健康・スポーツ科学科　中堀千香子
10.（ゼミ活動）女性競技者へのフェムテック啓発活動	2023年2月～	ゼミ活動においてフェムテック用品企業と共同し、女性および女性アスリートへのフェムテックにおける月経対応の啓発活動を実施（学科HPニュース掲載）
11.（資格）学内スポーツ医学検定受験特別対策講座企画と学内受験会場回の整備	2022年10月1日～	学内学生に向けてスポーツ医学検定機構「スポーツ医学検定」試験対策講座を資格サポート窓口と共同企画し学生の受験対策サポートと第4回試験にて本学試験会場を設定・運営し学生の検定受験への利便と合格者輩出を提供している。毎年健スポ・健マネ1年生が30名程度受験している。
12.（スポーツセンター・学友会）スポーツ傷害発生予防のための安全管理体制の構築	2022年6月～	学友会運動部における活動にて重大事象発生の予防、緊急対応システムを構築するために強化運動クラブにおいて傷害発生状況のデータ収集を開始。クラブから傷害発生状況を集約できるシステム化を作成
13.（共通教育）スポーツ実技科目における安全管理基準策定	2022年5月～2023年3月	令和5年度共通教育科目スポーツ実技科目における安全管理基準策定作業を主担当の一人として行った。WBGT計や熱中症警戒アラートにおける暑熱環境に対する対応と運動指針について新規策定し、緊急時対応マニュアルとして全学に配備を行った。
14.（資格）日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー資格専門科目適応コース申請	2022年4月～	スポーツマネジメント学科における日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー資格のスポーツマネジメントコースにおける科目選定認定校への申請のため対応科目選定や設置基準の適応化、大学における履修関連の諸手続きなど学科取得可能資格として整備した。
15.（ゼミ活動）学生におけるパラスポーツ支援	2022年4月～	ゼミにおいて車いすテニス大会の運営ボランティア、デフテニスや車いすテニスアスリートの練習サポートボランティアなどパラスポーツアスリート支援ボランティア活動を年3回程度実施している。（学科HPニュース掲載）
16.（スポーツセンター・学友会）2021年度武庫川女子大学アスリートセミナー開催	2022年2月14日	スポーツセンター主催『武庫川女子大学アスリートセミナー2021』を企画・進行した。 第一部：外部スピーカー講演「データ戦略で勝利を支える」／千葉洋平氏 第二部：座談会「武庫女アスリートのストロングを考える」／佐久川コーチ、石黒コーチ 第三部：情報提供 「目標管理アプリによるPDCAサイクル実施の取り組み」／ダンス部　渡辺明日香さん（新健4年） 「アスリートを吸収ショーツで支える」／株式会社azuki（スピーカー　陸上部OG 泉谷さん）
17.（資格）日本トレーニング指導者資格認定校申請	2021年4月～2022年1月	健康・スポーツ科学科の日本トレーニング指導者協会認定日本トレーニング指導者資格認定校への申請のため対応科目選定や設置基準の適応化、大学における履修関連の諸手続きなど学科取得可能資格として整備・導入した。
18.（スポーツセンター・学友会）2020年度武庫川女子大学アスリートセミナー開催	2021年2月8日	スポーツセンター主催2020年度アスリートセミナーを企画・進行約200名の参加者を集めオンライン開催で行った。 第1部外部スピーカー講演 「月経周期を味方につけるコンディション法」イーク表参道副院長の高尾美穂先生 第2部学内事例発表 「足関節捻挫の予防～トレーニングの即時効果について～」コンディショニング研究部
19.（FD)大学スキー研究会全国研修会参加による野外実	2020年1月1日～2020年1月5	大学スキー研究会全国研修会に参加し、スノースポー

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
習（スノースポーツ）FD	日	ツ指導法と技能研修を受講し、学部の野外実習（スノースポーツ）の指導技能向上を行った（2020年、2023年受講）
20.（学友会）硬式庭球部員のスポーツを通じた社会貢献活動の取り組み	2019年12月2022年12月	「兵庫県デフJrテニス教室」（主催：NPO法人デフテニスジャパン／協力：武庫川女子大学）を開催。硬式庭球部部員である学生が本学テニスコートにて聴覚にハンディキャップを持つ地域の小学生に対しテニス教室を開催し、2019年、2021年と交流・技術指導を行った。（学院HPニュース掲載）
21.（担任）「初期演習Ⅰ」における新入生フォローアップ	2019年4月1日～現在	１年生担任として「初期演習Ⅰ」を担当。初回授業開始までにmwu.jpでっクラス用「classroom」と学年「classroom」を立ち上げ、連絡系統を構築し、新入生に特化した情報提示や非常時の緊急連絡網の整備を行い新入生へのきめ細かいフォローに利用している。
22.（ゼミ活動）Slack/Google Drive活用によるゼミ内コミュニケーション・資料共有の効率化	2018年4月～現在	ゼミ専用オンラインプラットフォームとしてslackを採用し、連絡事項の整理と研究指導を効率的に実施している。共有ドライブで研究で使用する論文pdfやゼミのテーマに関わる情報を発信・過去資料を共有し、知的共有の効率化を図った。また、授業内発表に対する課題の提示・提出または、研究論文指導について個別の進度を可視化することができた。ゼミ研究等の連絡事項を掲示板を使い双方向で確認しながら進めた。
23.スライド講義に対応したノート作成によるアクティブラーニングの促進	2018年4月～2020年3月	大人数講義にて講義内容の理解を深めるためにはPPTを用いた進行が有効である。ただし学生にとっては画面に映し出される情報に対して瞬時にポイントを判断してノートを作成するのは難しく、学習意欲を下げてしまうことが問題となる。「スポーツ外傷障害の基礎知識Ⅱ」の授業において映し出すスライドに対応したポイントを理解して記入できるノート資料を配布し、学生が能動的に内容の理解が深まるよう資料を作成した。
2 作成した教科書、教材		
1.学科体力テストガイドラインの策定と記録データベース整備	2019年11月	学科1年次初期演習で実施する体力測定のガイドラインを策定した。またGoogle formsを用いた記録回収のためのプラットフォームをつくり、記録のデータベースを作成し、縦断的な体力データ蓄積を開始した。
2.コンディショニング指導論教材	2017年9月～	コンディショニング指導論の講義において、使用する講義内容に即したスライドをJSPO公認アスレティックトレーナー検定試験対策のポイントをまとめて作成した
3.アスレティックトレーニング教材	2017年9月～	アスレティックトレーニングⅠ.Ⅱ.Ⅲのそれぞれの講義が体系立ち、またより多くの知識が習得できるようできるようパワーポイントスライドを作成した。資格取得に必要な知識をわかりやすく提供するには効率化が必要と考えて実施した。また資格取得のために過去問を研究し、頻出問題と教科書記述部分を対応させて提示した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.大阪府スポーツ推進審議会委員	2023年4月1日～	女性スポーツの学識経験者としてスポーツ基本法、および大阪府スポーツ推進審議会条例に基づき、大阪府における，地方スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項の調査審議活動を実施する．
2.日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー総合検定試験検定員	2022年9月1日～現在	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー検定試験検定員として試験および養成事業に関与する
3.三幸学園大阪リゾート＆スポーツ専門学校非常勤講師	2021年9月2022年2月	スポーツ医学、コンディション関連の講義を担当した
4.関西医療大学保健医療学部　非常勤講師	2012年4月～	保健医療学部はり・灸トレーナー学科においてアスレティックトレーナー関連の講義担を担当
4 その他		
1.教学局学部広報入試委員	2024年4月～現在	健康・スポーツ科学部（健康・スポーツ科学科・ス

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
2.全国大学体育連合関西支部委員	2023年4月～2024年3月	ポーツマネジメント学科）入試広報・運営業務 大学教育における体育（保健教育及びスポーツを含む）に関する研究調査を行い、FD活動の支援、会員相互の体育活動の評価する大体連に大学代表の関西支部委員として活動
3.PCR検査調整員会委員	2021年4月1日～2022年3月31日	スポーツセンター担当
4.共通教育委員	2021年4月1日2024年3月31日	学院および学科共通教育委員
5.武庫川学院親睦会幹事	2019年4月1日～2022年3月31日	2019年度親睦会副幹事長
6.スポーツセンター副ダイレクター（アスリート支援部門）	2019年4月1日～現在	スポーツ医・科学支援担当
7.（公財）日本スポーツ協会資格担当	2018年4月～現在	健康・スポーツ科学部の日本スポーツ協会資格担当として共通科目認定および専門科目（アスレティックトレーナー、アシスタントマネジャー）に関する授業管理、申請手続き、受験手続、資格登録、資格申請支援、学生資格取得支援を担当。各資格に関する学生へのガイダンスや連絡実施を年6回程度実施してサポートしている。
8.武庫川女子大学学友会硬式庭球部部長	2018年4月～現在	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者	2018年2月～	
2.JADAドーピングコントロールオフィサー	2012年4月～	
3.日本体育協会公認アスレティックトレーナー	2000年10月～	
4.はり師・灸師	1996年6月～	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー連絡会議大阪府代表委員	2023年6月～現在	日本スポーツ協会におけるアスレティックトレーナー相互の連携を密にし、活動促進、相互研修等について協議・実行する
2.大阪府スポーツ協会　スポーツ医・科学委員会委員	2022年8月1日～	府民の体力の向上とスポーツ精神の高揚を図り、スポーツ医・科学的見地をもってスポーツの振興に寄与する
3.日本サッカー協会100周年表彰特別功労表彰受賞	2021年9月1日	（個人）強化・育成・指導者養成部門 都道府県／地域サッカー協会関係者、クラブ、日本代表選手、指導者、審判、グラスルーツ関連、医療関係者、教育関係者など、 各地域での活動を含めて日本サッカー界において、永年にわたり普及や発展に貢献した個人又は団体を表彰するもの。特別功労表彰は、特に貢献が顕著であると認められる個人及び団体を対象とする。
4.スポーツ庁スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP）プロジェクトメンバー	2016年7月～2021年3月31日	2020年東京オリンピック・パラリンピック、並びにそれ以降の日本の国際競技力向上に貢献することを目指し、国内外の異分野研究機関などとの産学連携を通じて、スポーツ研究イノベーション拠点を形成するプロジェクト（SRIP）メンバーとしてサッカー競技を中心に活動
5.日本体育協会　スポーツ医・科学研究研究班	2010年４月１日～2012年3月31日	日本体育協会スポーツ医・科学研究のスポーツ外傷の予防分野から「日本におけるスポーツ外傷サーベラインシステムの構築」研究班員としてサッカー競技での障害調査・分析した。
6.JOC競技強化スタッフ（サッカー）	2007年4月～2008年3月	JOCサッカー競技の強化スタッフとしてサッカー女子日本代表アスレティックトレーナーとしてチーム帯同した。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
1.東京パラリンピック大会2020	2021年8月24日～2021年8月31日	大会医事薬事スタッフとして帯同
2.東京オリンピック大会2020	2021年7月24日～2021年8月6日	大会医事薬事スタッフとして帯同
3.ラグビーワールドカップ2019日本大会	2019年9月～2019年10月	医事・薬事会場担当として帯同
4.U-18サッカー日本女子代表 アスレティックトレーナー	2010年9月～2011年3月	U-18サッカー日本女子代表アスレティックトレーナーとして、国内外強化トレーニングキャンプに帯同した。
5.JFAメディカルセンターアスレティックトレーナー	2009年8月～2011年3月	FIFAゴールプログラム初の医療施設としてアスリートに対して専門的な医療サービス、メディカルチェックやフィジカルチェックの測定データやスポーツ障害の症例等の蓄積・分析・研究、および地域住民向けの医療サービスを提供する日本サッカー協会が運営する医療センターのアスレティックトレーナーとして勤務
6.U-19サッカー日本女子代表 アスレティックトレーナー	2009年1月～2010年7月	U-19サッカー日本女子代表チームアスレティックトレーナーとしてチーム帯同し、AFCU-19女子選手権（中国）に参加し優勝、FIFA女子U-19ワールドカップ2010ドイツに出場し、グループリーグ敗退の成績を収めた。
7.U-17サッカー日本女子代表 アスレティックトレーナー	2007年5月～2008年11月	U-17サッカー日本女子代表チームアスレティックトレーナーとしてチーム帯同し、FIFA女子U-17ワールドカップ2008 ニュージーランドベスト８の成績を収めた。
8.サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）アスレティックトレーナー	2007年2月～2007年7月	サッカー日本女子代表（なでしこジャパン）アスレティックトレーナーとしてアジア女子サッカー2008（北京オリンピック最終予選）およびFIFA女子ワールドカップ中国2007最終予選プレーオフに帯同した。
9.JFAアカデミーアスレティックトレーナー	2006年4月～2017年7月	公益財団法人日本サッカー協会が運営する「世界基準」をキーワードとし、ロジング形式による中高一貫教育によるサッカーエリート育成施設でのアスレティックトレーナーとしてJFAアカデミー福島、堺を歴任した。また、日本サッカー協会ATとして育成年代の代表選手育成事業のメディカル担当として各種事業担当した。
10.U-20サッカー日本女子代表 アスレティックトレーナー	2005年5月～2006年4月	サッカー日本女子代表チームアスレティックトレーナーとしてチーム帯同し、AFC U-19女子選手権マレーシア2006に参加し、4位の成績を収めた。
11.東海大学体育会サッカー部アスレティックトレーナー	2004年４月～2006年3月	東海大学体育会サッカー部アスレティックトレーナーとして男子大学選手のメディカルサポートを行った
12.JR東日本古河サッカークラブ（ジェフユナイテッド市原・千葉）アスレティックトレーナー	2000年6月～2004年１月	Jリーグ下部組織ユース・ジュニアユースチームの育成担当アスレティックトレーナとして常勤契約し医事運営担当
13.第54回国民体育大会（熊本国体）サッカー競技少年男子大阪府代表チーム帯同	1999年10月	サッカー競技少年男子大阪府代表チームのアスレティックトレーナーとして第54回国民体育大会（熊本）に帯同し第3位の成績を収めた
14.第53回国民体育大会（かながわ国体）大阪府成年女子サッカーチーム帯同	1998年10月	サッカー競技成年女子大阪府代表チームにアスレティックトレーナーとして帯同し第53回国民体育大会（神奈川県）にて第3位の成績を収めた
15.第52回国民体育大会（なみはや国体）大阪府成年女子サッカーチーム帯同	1997年10月	サッカー競技成年女子大阪府代表チームににアスレティックトレーナーとして帯同し第52回国民体育大会（なみはや国体）にて優勝の成績を収めた
16.夏季ユニバーシアード（福岡大会）サッカー競技男子日本代表チーム帯同	1995年8月	ユニバーシアードサッカー競技男子日本代表チームにチームメディカル補助として帯同し夏季ユニバーシアード（福岡大会）サッカー競技において優勝の成績を収めた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.平成27年度　日本体育協会スポーツ医・科学研究報告　ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み―第３報―	共	2015年	日本体育協会	「2-1各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証 サッカー」佐保泰明・加藤晴康・中堀千香子・馬越博久・福林徹. 5-15, 2015. 本研究は、ジュニア期に頻発、あるいは、重篤な事故に結びつきやすいスポーツ外傷・障害を予防するためのプログラムを開発し、事故発症リスクの高いと考えられる集団への介入研究を実施した。
2.平成26年度　日本体育協会スポーツ医・科学研究報告ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み―第２報―	共	2014年	日本体育協会	「2-1各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証 サッカー」佐保泰明, 加藤晴康,中堀千香子, 馬越博久, 福林徹. 4-12, 2014. ジュニア期に頻発、あるいは、重篤な事故に結びつきやすいスポーツ外傷・障害を予防するためのプログラムを開発し、事故発症リスクの高いと考えられる集団への介入研究を実施。医・科学面でのエビデンスを蓄積するとともに、予防プログラムが確定した後には本会の関係機関を通じて普及・啓発を図る。
3.平成25年度　日本体育協会スポーツ医・科学研究報告ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み―第1報―	共	2013年	日本体育協会	「2-1各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証 サッカー」佐保泰明, 加藤晴康, 中堀千香子, 馬越博久, 小林拓馬, 福林徹. 5-14, 2013. 本研究は、ジュニア期に頻発、あるいは、重篤な事故に結びつきやすいスポーツ外傷・障害を予防するためのプログラムを開発し、事故発症リスクの高いと考えられる集団への介入研究を実施した。本研究では予防プログラム案を作成し、介入研究に着手した
4.平成24年度　日本体育協会スポーツ医・科学研究報告日本における外傷サーベラインシステムの構築―第3報―	共	2012年	日本体育協会	「3-1. サッカーにおけるプログラム検証」佐保泰明, 中堀千香子, 福林徹.80-87, 2012. 我が国における全国的なスポーツ外傷統計として、日本スポーツ振興センターおよびスポーツ安全協会における事故統計データを集計・分析した。また、日本の主要競技会におけるスポーツ外傷調査を規格化し、国際的な基準に合わせて比較検討できるシステムを構築することを目的とする調査研究を実施した。
5.コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト	共	2011年	金原出版	第7章現場での処置・ケガからの復帰「予防プログラム」財団法人日本サッカー協会スポーツ医学委員会 編,浅井武,池田浩夫,池田浩,大場俊二,中堀千香子,福林徹ら. 98-106,2011. バイオメカニクス, コンディショニング, メディカルチェック, 外傷・障害, 内科的疾患, 栄養など「サッカー医学」の主要な情報を収載。サッカーにおけるスポーツ障害予防プログラムであるThe11+の作成動機、介入実績、実施方法について紹介した。実施方法にはコンプライアンスの重要性が高いことを啓発している。
6.平成23年度　日本体育協会スポーツ医・科学研究報告日本における外傷サーベラインシステムの構築―第2報―	共	2011年	日本体育協会	「2-1. サッカー：Jリーグ, なでしこリーグ, Fリーグにおける外傷調査(2011)」池田浩,中堀千香子, 福林徹. 33-40, 2011. 「3-１スポーツ外傷・障害予防プログラムの開発・検証 サッカー」中堀千香子,池田浩. 63-67, 2011. 日本におけるスポーツ外傷調査を規格化し、国際的な基準に合わせて比較検討できるシステムを構築することを目的とした調査研究を行った。前年に続き、学校管理下・管理外における全国的なスポーツ外傷統計調査および国内主要競技会におけるスポーツ外傷発生調査を行った。また、スポーツ外傷・障害予防プログラムの開発・検証を目的として介入調査を行い、外傷発生頻度やパフォーマンスに及ぼす影響を検討した。
7.平成22年度　日本体育協会スポーツ医・科学研究報告日本における外傷サーベラインシステムの構築―第1報―	共	2010年	日本体育協会	「2-1. スポーツ外傷発生調査【サッカー】(1)Jリーグ, なでしこリーグ, Fリーグにおける外傷発生調査」池田浩, 中堀千香子, 福林徹. 27-38, 2010. 「3-1スポーツ外傷・予防プログラムの開発・検証. サッカー」中堀千香子,加藤晴康,　pp54-63, 2010. 日本におけるスポーツ外傷調査を規格化.し、世界基準と比較検討できるシステムを構築することを目的とした調査研究を行った。 全国的なスポーツ外傷統計について、日本スポーツ振興センター、スポーツ安全協会と協力し、学校管理下・管理外における部位／疾患／種目別の解析を試みた。また、国内主要競技会におけるスポーツ外傷発生調査についてIOC基準に準拠した解析を実施するとともに、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				既存の障害予防プログラムの有効性検証や予防法確立に向けた実態調査を行った。
2 学位論文				
3 学術論文				
1.Age Differences in Change-of-Direction Performance and Its Subelements in Female Football Players	共	2015年	Int J Sports Physiol Perform	Norikazu Hirose, Chikako Nakahori. 10(4),440-445, 2015. 女性アスリートの方向転換能力向上要因分析と年代別トレーニング構築について検討した。方向転換能力は中学生から高校生期に著しく向上すること、その向上は、形態、スピード、筋パワーの変化は年代にかかわらず関連せず特異的な変化であった。動作分析においては減速機から停止期にかけて要する時間が短く、単位時間あたりの重心移動量が大きいことが方向転換スピードに関連することが示唆された。
2.成長期腰椎分離症の予防に関する検討	共	2010年	日本臨床スポーツ医学会	三澤辰也，藤本栄雄，島田真梨子,中堀千香子，加藤晴康，土肥美智子，福林徹，紺野愼一
3.JFAアカデミー福島のメディカルサポート	共	2008年	フットボールの科学　2008 Vol.3 P4-8	藤本栄雄・中堀千香子
4.女性サッカー選手における試合期間中の唾液中DHEAの変動	共	2004年	体力科学	相澤 勝治,中堀 千香子,秋本 崇之,木村 文律,林 貢一郎,河野 一郎,目崎 登. 53(1),149-156,2004. アスリートにおける継続的なトレーニング負荷の変動に伴うDHEAの応答性を把握するために、大学女性サッカー選手を対象に、試合期間中の唾液中DHEAの動態について検討した 唾液中DHEA濃度は試合前に比べ試合期に明らかに増加し、疲労を伴う過剰なトレーニング環境下で顕著に増加した。このため女性アスリートにおいて、DHEAはトレーニング変化に応答する内分泌学的因子となる可能性が示唆された。
5.Acupuncture and responses of immunologic and endocrine markers during competition	共	2003年	Med Sci Sports Exerc	Akimoto Takayuki,Nakahori Chikako,Aizawa Katuharu, Kimura Fuminori, Fukubayashi Toru, Kono Ichiro. 35(8),1296-1302, 2003. 女性アスリートにおける鍼刺激による免疫応答および主観的疲労度を鍼刺激群と対照群の2グループ間において比較検討した。唾液分泌型の免疫グロブリンA(sIgA) の分泌量低下と唾液分泌コルチゾル濃度の上昇は鍼刺激群により有意に認められた。また筋緊張の緩和、疲労感の主観的項目は鍼刺激群にて有意に改善していた。これらの結果により鍼治療は肉体的、精神的コンディションの改善に大きく寄与する可能性が示唆された。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
2．学会発表				
1.下肢筋力トレーニングが片脚ドロップジャンプ着地時の動的バランスに及ぼす影響	共	2021年11月13日	第32回日本臨床スポーツ医学会学術集会口頭発表	中堀千香子、堀部秀二、高尾理樹夫、小笠原一生、中田研
2.異なる競技種目の女子アスリートにおける動的バランス動態の比較		2020年11月3日	第31回日本臨床スポーツ医学学術集会　口頭発表	中堀千香子、堀部秀二、高尾理樹夫、小笠原一生、中田研
3.大学生女子アスリートにおける動的バランスと競技特性との関連		2019年11月17日	第30回日本臨床スポーツ医学学術集会　口頭発表	中堀千香子、堀部秀二、高尾理樹、小笠原一生、中田研、小柳好生）
4.女子中学生サッカー選 手の体組成変化	共	2016年	日本臨床スポーツ医学会	高尾理樹夫,中堀千香子，川上由紀子，内田良平，天野大，中田研，堀部秀二
5.ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害予防への取り組み －	共	2015年	日本臨床スポーツ医学会	佐保泰明，馬越博久，加藤晴康,中堀千香子，岩田清志，島田真梨子，中條智志，松木仁志，池田浩，福岡重雄，宮川俊平，森川嗣夫，立石智彦，土肥美智子，福林徹

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
サッカー-				
6.男女エリートサッカー選手の方向転換能力の横断的変化とトレーニングに関する考察	共	2013年2月3日	第1回日本アスレティックトレーニング学会学術集会	広瀬統一、中堀千香子、関大悟
7.成長期サッカー選手に対する傷害予防プログラム「11＋」の効果	共	2013年	日本臨床スポーツ医学会	佐保泰明,中堀千香子，松田拓也，中條智志，加藤晴康，福林徹
8.オスグッド・シュラッター病早期発見の取り組み	共	2011年	日本臨床スポーツ医学会	中條智志，加藤晴康，藤本栄雄，三澤辰也，中堀千香子，松田拓也，島田真梨子
9.オスグッド-シュラッター病(オスグッド病)を早期安静にて治療した症例の利点と問題点	共	2010年	日本臨床スポーツ医学会	藤本栄雄，加藤晴康，三澤辰也，中堀千香子，島田真梨子，土肥美智子，紺野愼一，福林徹
10.ジュニアサッカー選手における貧血の検討-スポーツ現場への提言-	共	2010年	日本臨床スポーツ医学会	土肥美智子，中堀千香子，三澤辰也，島田真梨子，藤本栄雄，加藤晴康，福林徹，川原貴
11.育成期サッカー選手におけるコンディションの検討～スポーツ傷害発生数と鉄欠乏性貧血、持久的能力の関係～	共	2010年	日本臨床スポーツ医学会	中堀千香子，松田貴雄，土肥美智子，三澤辰也，加藤晴康，島田真梨子，藤本栄雄，福林徹
３．総説				
1.サッカーにおける予防の取り組み（特集 手術後の再受傷・再損傷予防の取り組み --そのメカニズムとリハビリテーションの実際 ； 競技別の取り組み	単	2011年	臨床スポーツ医学	28(4),417-423,2011.「サッカー競技における予防運動プログラムTHE11+の方法とその効果を検証し報告した。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.パネルディスカッション座長：「スポーツパフォーマンスの向上-トレーナーからの提言」		2024年2月10日	令和5年度関西広域連合スポーツ指導者講習会 兼スポーツ医・科学セミナー２０２４	「アスリートのパフォーマンス向上」がテーマの本セミナーにおいてスポーツ現場の課題と対応について、コーチ、トレーナー、フィジカルコーチにおけるそれぞれの立場からの提言を行うパネルセッションの座長を担当した。
2.パネルディスカッション座長：「女性とスポーツ-スポーツ現場での課題と今後の対応」		2023年2月5日	令和４年度関西広域連合スポーツ指導者講習会 兼スポーツ医・科学セミナー２０２３	「女性と健康」がテーマの本セミナーにおいてスポーツ現場の課題と対応について、コーチ、トレーナー、選手におけるそれぞれの立場からの提言を行うパネルセッションの座長を担当した。
3.パネルディスカッション：育成世代のコンディショニング	単	2018年1月	OSAKAフットボールメディカルカンファレンス2018	社団法人大阪府サッカー協会主催医科学カンファレンス「サッカーにおける育成世代のコンディショニング」テーマ内のパネルディスカッションで育成期女子選手のコンディショニングについて講演
4.報告発表：サッカーにおける傷害予防		2012年2月26日	早稲田大学スポーツ科学学術院グローバルCOE・ミニシンポジウム「傷害予防セミナー」	早稲田大学スポーツ科学学術院グローバルCOEにおける各競技の傷害予防の取り組みについてのシンポジウムにて、サッカー競技での取り組みみとして予防プログラムthe11＋の介入結果について報告発表を行った。
5.パネルディスカッ	単	2011年11月	チームドクタート	日本臨床スポーツ医学学会のスポーツ医学系別会にてパネルディス

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
ション：前十字靱帯損傷予防の成果と展望		4日	レーナーミーティング	カッション：前十字靱帯損傷予防の成果と展望のうち「サッカーにおける予防」分野のパネリストとして話題提供を行った
６．研究費の取得状況				
1.丹波市包括連携協定補助事業		2024年4月	兵庫県丹波市	全国高等学校女子硬式野球大会運営，傷害予防調査に関わる活動助成金取得
2.基盤研究（C）新規研究分担者	共	2022年4月～		女子大学運動部における女性アスリートの三徴および鉄欠乏性貧血の実態調査
3.スポーツ庁委託事業　スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP）　ジャパン・スポーツ・サイバーフィジカルシステム(JS-CPS)構築研究事業拠点	共	2019年4月1日～2021年3月31日	スポーツ庁	スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクトは2020 年東京オリンピック・パラリンピックでのトップアスリートの活躍やその後の競技力向上を目指し、スポーツと異分野の融合・連携による独創的で革新的な研究を推進し、次世代の中核を担う優秀な若手スポーツ研究者を育成する事業である。 ９つある事業プロジェクトのうち、本学はPJ3:バランス（神経-筋機能）（若年女性，成人女性の動的バランス測定，評価項目の検討）を担当する事業拠点として委託されており、その担当者として競技特性を踏まえた検討や直接的なアスリートのデータの現場実証を実施している

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年4月1日～現在 2.2022年4月～	大阪府スポーツ推進審議会委員 大阪府スポーツ協会スポーツ医科学委員会委員 日本臨床スポーツ医学会